

作物名 **ごぼう** (キク科)

JA 2022 版

標準作型

○印・播種(種まき)

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき				○○								
秋まき									○			

栽培のポイント

耕土が深く肥沃な土壌が最適。黒土のようなやわらかく水はけのよい土質が適している。ネコブセンチュウの被害が出やすいので、4~5年同一圃場での連作を避ける。品質を揃え、良質のごぼうを収穫するには、間引きのタイミングと残す株の見極めがポイント。

品 種 山田早生(各社) 根の先端まで肉づきが良い早生種。
 正作(カネコ) 貯蔵性がよい早生種。ス入りが遅い。
 直輝(日本農林) そろいの良い中生種。ス入りが遅い。
 てがる(柳川採種) サラダ利用が可能な短根早生種。サラダむすめ(タキイ)と同じ品種。
 ダイエット(サカタ) 側根が少ない短根早生種。ス入りが遅い。

畑の準備 酸性土壌を嫌うので苦土石灰(10kg/a)と堆肥(100kg/a)を入れて、できるだけ深く80㎝くらいまで耕しておく。下層のしまった畑では、播種の1ヶ月以上前にトレンチャーでまき溝を深耕し、播種までに土を落ち着かせておく。

元 肥 元肥をすき込み、土を細かく砕きうねを作っておく。ただしうねの芯への割り肥が良いが、全面すき込みでは、根の枝分かれの原因となることがあるので施肥に注意する。
 (1a 当たり使用量)

ジシアン有機化成 S806 号	10 kg	播種前
-----------------	-------	-----

播 種 (種まき) 種子は皮が硬いので一昼夜水に浸しておき、吸水させておく。
 好光性なのでやっと思える程度に覆土するのが発芽させるコツになる。
 株間15㎝で3~4粒の点まきにする。うねをできるだけ高く(10~30㎝)するのでうね幅は100㎝位が良い。播種後は、鎮圧し水はかけない。まき時は、春まきの4月上中旬と秋まきの9月上旬がある。

間引き 発芽が揃ったら、除草をかねて中耕と土寄せをして、2本立ちに間引き、本葉2~3枚で1本立ちにしておく。生育が極端に旺盛なものや発芽不良株、葉数の多すぎるものを間引き、生育が平均的な株を残す。

追 肥 1本立ちから草丈30㎝になるまでの間に2~3回条間追肥と中耕・土寄せをする。
 (1a 当たり使用量)

NK化成2号	5 kg	1回目： 播種後25~30日頃 2回目： 播種後70~80日頃
--------	------	------------------------------------

病虫害防除 根の病害は輪作を守れば発生は少ない。他にうどんこ病が発生することがある。虫害はセンチュウが最大の問題で、センチュウ害の可能性があれば、センチュウ用の粒剤を播種前に土壌施用する。ネキリムシの対策のために、作付け予定地に雑草を生やさないようにする。アブラムシ類が発生した場合は適宜防除を行う。

収 穫 わきから掘り崩し、ごぼうを折らないように抜く。トレンチャーで深耕していれば、比較的容易に抜くことができるが、深耕をしていない場合は根が折れやすいので注意する。